

SONY®

S-BUS/ETHERNET SOFTWARE

BZR-IF820

INSTALLATION MANUAL
1st Edition (Revised 1)



3776947020

警告

このマニュアルは、サービス専用です。

お客様が、このマニュアルに記載された設置や保守、点検、修理などを行うと感電や火災、人身事故につながる可能性があります。

危険をさけるため、サービストレーニングを受けた技術者のみご使用ください。

WARNING

This manual is intended for qualified service personnel only.

To reduce the risk of electric shock, fire or injury, do not perform any servicing other than that contained in the operating instructions unless you are qualified to do so. Refer all servicing to qualified service personnel.

WARNUNG

Die Anleitung ist nur für qualifiziertes Fachpersonal bestimmt.

Alle Wartungsarbeiten dürfen nur von qualifiziertem Fachpersonal ausgeführt werden. Um die Gefahr eines elektrischen Schlages, Feuergefahr und Verletzungen zu vermeiden, sind bei Wartungsarbeiten strikt die Angaben in der Anleitung zu befolgen. Andere als die angegeben Wartungsarbeiten dürfen nur von Personen ausgeführt werden, die eine spezielle Befähigung dazu besitzen.

AVERTISSEMENT

Ce manuel est destiné uniquement aux personnes compétentes en charge de l'entretien. Afin de réduire les risques de décharge électrique, d'incendie ou de blessure n'effectuer que les réparations indiquées dans le mode d'emploi à moins d'être qualifié pour en effectuer d'autres. Pour toute réparation faire appel à une personne compétente uniquement.

目次

このマニュアルについて

本書の目的	3
構成	3
商標について	3

1. 設置

1-1. 概要	1-1
1-1-1. ファイル一覧	1-1
1-1-2. 特長	1-1
1-1-3. システム構成	1-2
1-2. HKSP-R80 の機能変更	1-3
1-2-1. 全体の機能	1-3
1-2-2. コネクタの機能	1-4
1-2-3. 基板上のスイッチの機能	1-5
1-3. 設置作業手順	1-5
1-4. スイッチ / インジケータの名称と機能	1-6
1-5. BZR-IF820 のインストール	1-12
1-6. インストールキーの入力	1-14
1-7. ネットワーク接続 (IP アドレス) の設定	1-16
1-8. 接続および設定例	1-17

2. セットアップ

2-1. 概要	2-1
2-1-1. 設定手順のフロー	2-1
2-1-2. マニュアル中の表記について	2-1
2-2. 準備	2-2
2-3. 表示画面と画面間の移動について	2-3

3. トラブルシューティング

このマニュアルについて

本書の目的

本書は、S-BUS / イーサネットソフトウェア BZR-IF820 のインストールマニュアルです。

本書は、システム / サービスエンジニアの方々にご使用いただくことを想定し、本機の納入・設定時に必要な情報を記載しています。

構成

本書の構成を把握していただくために、全章の概略を以下に説明します。

第1章 設置

システム構成、インストール手順、ネットワーク接続の設定について説明しています。

第2章 セットアップ

セットアップの詳細は、HKSP-R80に付属のシステムセットアップマニュアルをご覧ください。

ここでは、HKSP-R80 と異なる項目 (主に準備手順) について説明しています。

第3章 トラブルシューティング

トラブル発生時の対応法について記載しています。

商標について

このマニュアルに記載されている商標および登録商標は下記のとおりです。

- Ethernet は、米国ゼロックス社の登録商標です。

第1章 設置

1-1. 概要

S-BUS / イーサネットソフトウェア BZR-IF820 は、S-BUS とイーサネットのプロトコルを双方向で変換するソフトウェアです。

このソフトウェアをルーティングスイッチャコントローラ HKSP-R80 にインストールすると、1 次局と 3 次局 (S-BUS サブネット) の機器間をイーサネットで接続できます。

S-BUS イーサネットコンバータ

このマニュアルでは、HKSP-R80 に BZR-IF820 をインストールしたものを、S-BUS / イーサネットコンバータと呼びます。

S-BUS サブネット

BZR-IF820 で拡張された S-BUS データリンクを S-BUS サブネットと呼びます。また、S-BUS サブネット内に接続された S-BUS 機器を、3 次局と呼びます。

参考

1 次局と 3 次局をイーサネットで接続する場合は、S-BUS / イーサネットコンバータを 1 次局側と 3 次局側にそれぞれ 1 台ずつ、合計 2 台が必要です。詳しくは、「1-1-3. システム構成」を参照してください。

1-1-1. ファイル一覧

BZR-IF820 は以下で構成されています。

ファイル名	内容
3790049**e.pdf	ソフトウェア使用許諾書 (英語) ソフトウェアをインストールする前にお読みください。
3779978**j.pdf	ソフトウェア使用許諾書 (日本語) ソフトウェアをインストールする前にお読みください。
3776948010-00e.pdf	インストールマニュアル (英語) このマニュアルです。
3776947010-00j.pdf	インストールマニュアル (日本語) このマニュアルです。
Readme.txt	(英語) ソフトウェアのバージョン情報などが記載されています。最初にお読みください。
Readmej.txt	(日本語) ソフトウェアのバージョン情報などが記載されています。最初にお読みください。
l82V***.hex	プログラムデータです。ルーティングスイッチャコントローラ HKSP-R80 にインストールして使用します。1-5 項を参照して、インストールしてください。
SBUSV***.hex	プログラムデータです。ルーティングスイッチャコントローラ HKSP-R80 にインストールして使用します。1-5 項を参照して、インストールしてください。

1-1-2. 特長

1 次局と S-BUS サブネットの機器間をイーサネット LAN を使った接続を可能にします。

これにより、機器の設置可能エリアを広げることができます。(75 Ω 同軸ケーブルを使用して S-BUS 機器を接続した場合、機器の設置範囲は最大 1 km です。)

S-BUS ネットワークへの接続可能機器数を飛躍的に増大

S-BUS ネットワーク内に 253 個のサブネットを構築することができます。1 つのサブネットには最大 253 台の機器を接続可能です。

注意

ID 番号 2 ~ 254 をすべて拡張すると、約 60000 台の機器をコントロールすることが可能ですが、システムのセットアップ時間は、接続台数に比例して増加します。

柔軟性 / 信頼性の高い分散処理環境を提供

BZR-20 を使ってサブネットごとに機器設定のバックアップおよび復元が可能です。また 1 次局バスプロテクトとサブネットのバスプロテクトを共有することができます。

また、S-BUS / イーサネットコンバータを 2 組使用して、2 重化運用が可能になります。

ネットワーク全体の集中設定およびデータ管理に対応

BZR-2000 (別売り) を使って、すべての機器の一括設定および一括バックアップが可能になります。

また分散処理と集中処理を次のように使い分けることができます。

- ・ S-BUS / イーサネットコンバータターミナルからサブネット内機器の設定が可能
- ・ システムターミナルからネットワーク全体の設定が可能

注意

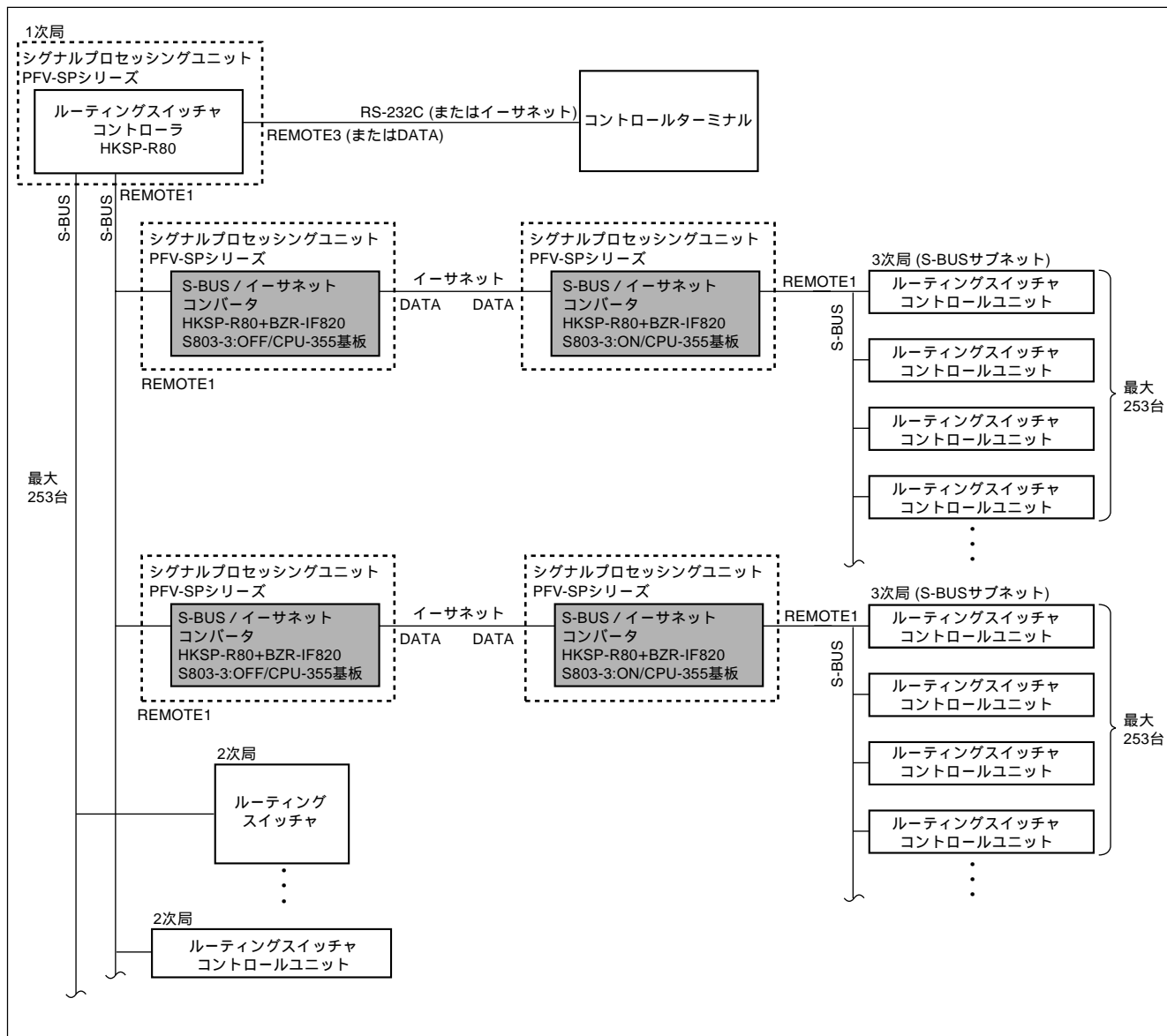
バージョン V1.40 以前の BZR-2000 でシステムセットアップを行うときは、機器拡張が可能なモデルは、リモートパネルと UMD (Under Monitor Display) に限定されます。

1-1-3. システム構成

BZR-IF820 を使って1次局とS-BUSサブネット(3次局)間をイーサネットで接続し、S-BUSネットワークを構築するもっとも一般的なシステム例です。

このようなシステムの場合、1本のS-BUSに対してHKSP-R80が2台必要です。2台のHKSP-R80それぞれにBZR-IF820をインストールします。

1次局に接続されるS-BUS / イーサネットコンバータのCPU-355基板上的スイッチS803-3をOFFにします。
S-BUSサブネット(3次局)に接続されるS-BUS / イーサネットコンバータのCPU-355基板上的スイッチS803-3をONにします。



1-2. HKSP-R80 の機能変更

BZR-IF820をインストールすると、HKSP-R80はS-BUS / イーサネットコンバータとなり、その機能は以下のように変更されます。

1-2-1. 全体の機能

注意

S-BUS / イーサネットコンバータは、1次局に接続される場合と3次局に接続される場合で動作が異なります。

1次局に接続されたS-BUS / イーサネットコンバータ (以降S-BUS / イーサネットコンバータ(S)と表記) は、1次局からS-BUS コマンドを受け取り、3次局と接続されているもう一つのS-BUS / イーサネットコンバータ (以降S-BUS / イーサネットコンバータ(P)と表記) にイーサネット経由で、受け取ったS-BUS コマンドを伝達します。

S-BUS / イーサネットコンバータ(P)は、イーサネットから受け取ったコマンドをS-BUSコマンドとして3次局に送信し

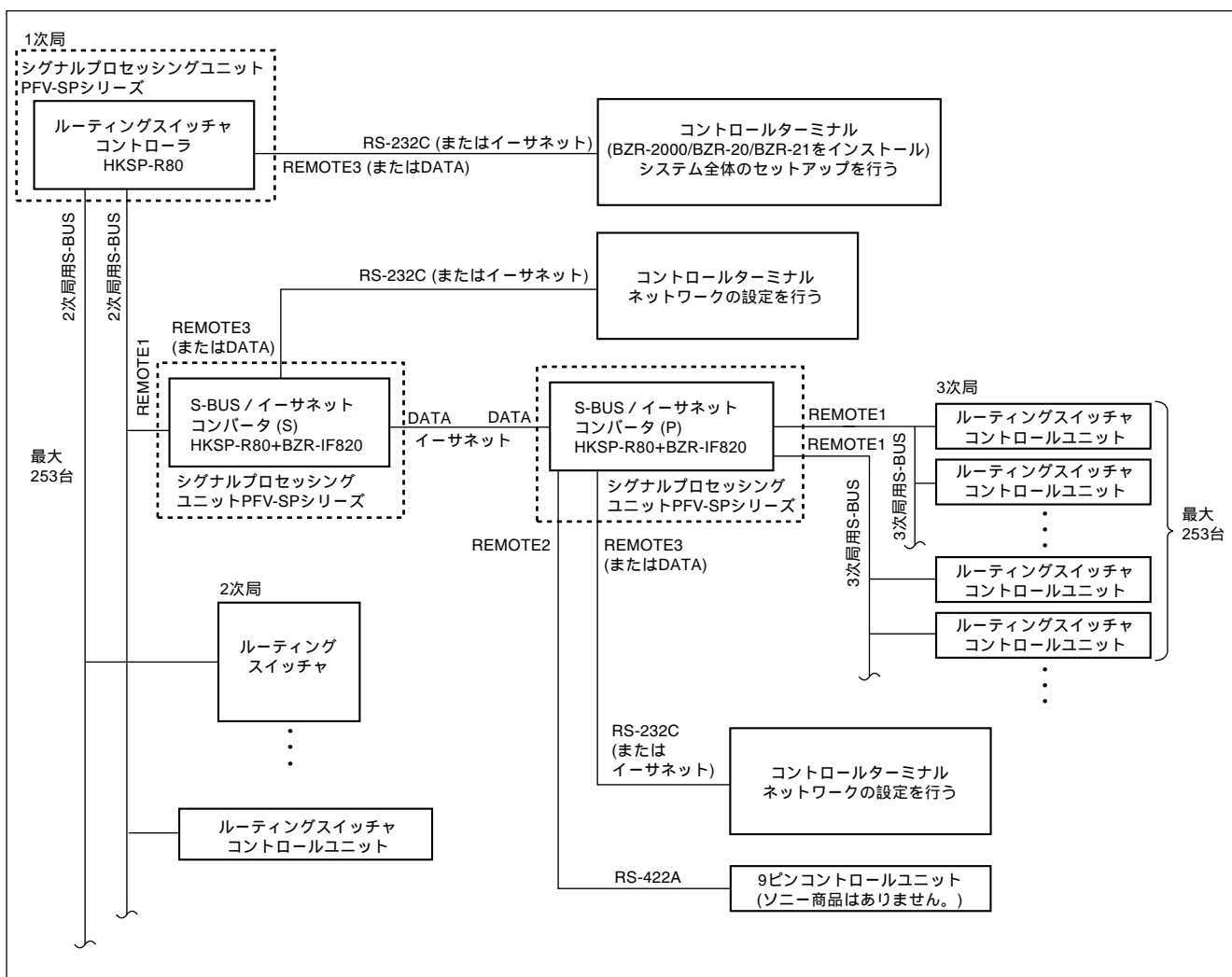
ます。また、3次局から送信されたS-BUSコマンドをS-BUS / イーサネットコンバータ(P)が受け取り、イーサネット経由でS-BUS / イーサネットコンバータ(S)へ伝達し、S-BUS / イーサネットコンバータ(S)がS-BUS コマンドとして1次局に送信します。

REMOTE1コネクタは、S-BUS / イーサネットコンバータ(S)では1次局との接続用となり、S-BUS / イーサネットコンバータ(P)では3次局との接続用になります。

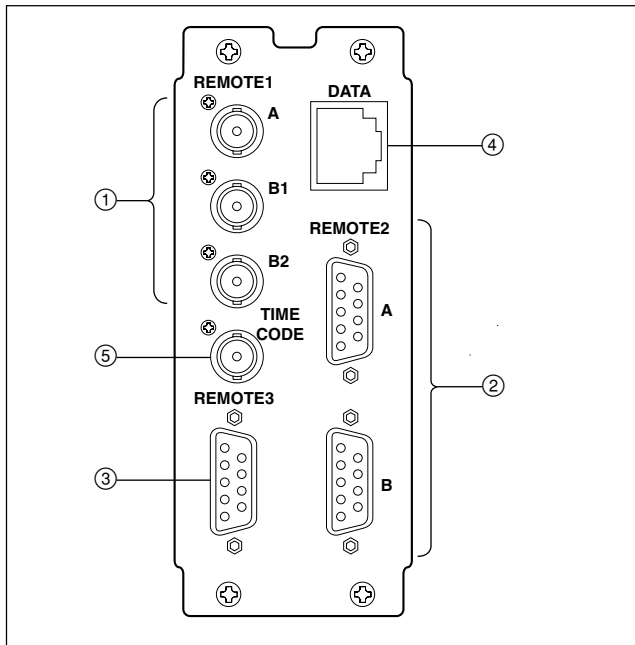
REMOTE2コネクタは、S-BUS / イーサネットコンバータ(P)のみ有効です。外部機器からの9ピンリモート (CART++ プロトコル) を受けて、S-BUS コマンドに変換し、REMOTE1コネクタに出力します。

ネットワークの設定は、S-BUS / イーサネットコンバータ(S)もS-BUS / イーサネットコンバータ(P)もREMOTE3コネクタから行います。

S-BUS / イーサネットコンバータ(P)は、REMOTE3コネクタまたはDATAコネクタに接続したPCのコントローラータミナルから、S-BUS サブネット内の設定を行います。また、HKSP-R80に付属のBZR-20を使用して、同コネクタに接続したPCから、設定データのバックアップと復元が可能です。



1-2-2. コネクタの機能



S-BUS / イーサネットコンバータ(S) (S803-3 が OFF) のとき

- ① REMOTE1 コネクタ (S-BUS)
1 次局の S-BUS データリンクと接続します。
A, B (B1/B2) の 2 系統ありますが、いずれか 1 つのコネクタを使用して 1 次局と接続してください。

注意

使用しないコネクタには、HKSP-R80 に付属の 75 Ω 終端器を取り付けてください。
- ② REMOTE2 コネクタ (RS-422A)
使用できません。
- ③ REMOTE3 コネクタ (RS-232C)
PC の RS-232C ポートと接続し、ネットワークの設定に使用します。
- ④ DATA コネクタ (イーサネット)
イーサネットスイッチを介して、S-BUS / イーサネットコンバータ(P)と接続します。また、イーサネットスイッチを介して PC のイーサネットコネクタと接続し、以下のことを行うときに使用します。
 - ・ プログラムのダウンロード
 - ・ S-BUS データリンクのログ取得
- ⑤ TimeCode IN コネクタ
タイムコード信号を入力します。S-BUS データリンクのログに発生日時を付加するために使用します。

S-BUS / イーサネットコンバータ(P) (S803-3 が ON) のとき

- ① REMOTE1 コネクタ (S-BUS)
3 次局の S-BUS データリンクと接続します。
A, B (B1/B2) の 2 系統あり、すべてのコネクタを同時に使用して 3 次局と接続することができます。

注意

使用しないコネクタには、HKSP-R80 に付属の 75 Ω 終端器を取り付けてください。
- ② REMOTE2 コネクタ (RS-422A)
外部機器と接続します。入力された制御コマンド (Cart ++ プロトコル) を S-BUS プロトコルに変換し、S-BUS サブネット内の機器をコントロールします。
A, B の 2 系統あり、両方のコネクタを同時に使用して外部機器と接続することができます。
- ③ REMOTE3 コネクタ (RS-232C)
PC の RS-232C ポートと接続し、以下のことを行うときに使用します。
 - ・ ネットワークの設定
 - ・ 3 次局の設定
 - ・ BZR-20 を使い 3 次局設定データのバックアップと復元
 - ・ プログラムのダウンロード
- ④ DATA コネクタ (イーサネット)
イーサネットスイッチを介して、S-BUS / イーサネットコンバータ(S)と接続します。また、イーサネットスイッチを介して PC のイーサネットコネクタと接続し、以下のことを行うときに使用します。
 - ・ S-BUS データリンクのログ取得
 - ・ 3 次局の設定
 - ・ BZR-20 を使い 3 次局設定データのバックアップと復元
 - ・ プログラムのダウンロード
- ⑤ TimeCode IN コネクタ
タイムコード信号を入力します。S-BUS データリンクのログに発生日時を付加するために使用します。

1-2-3. 基板上のスイッチの機能

CPU-355 基板上のスイッチは、以下のスイッチの機能が変更になります。各スイッチの詳細については、「1-4. スイッチ / インジケータの名称と機能」を参照してください。

S802 (A-2)

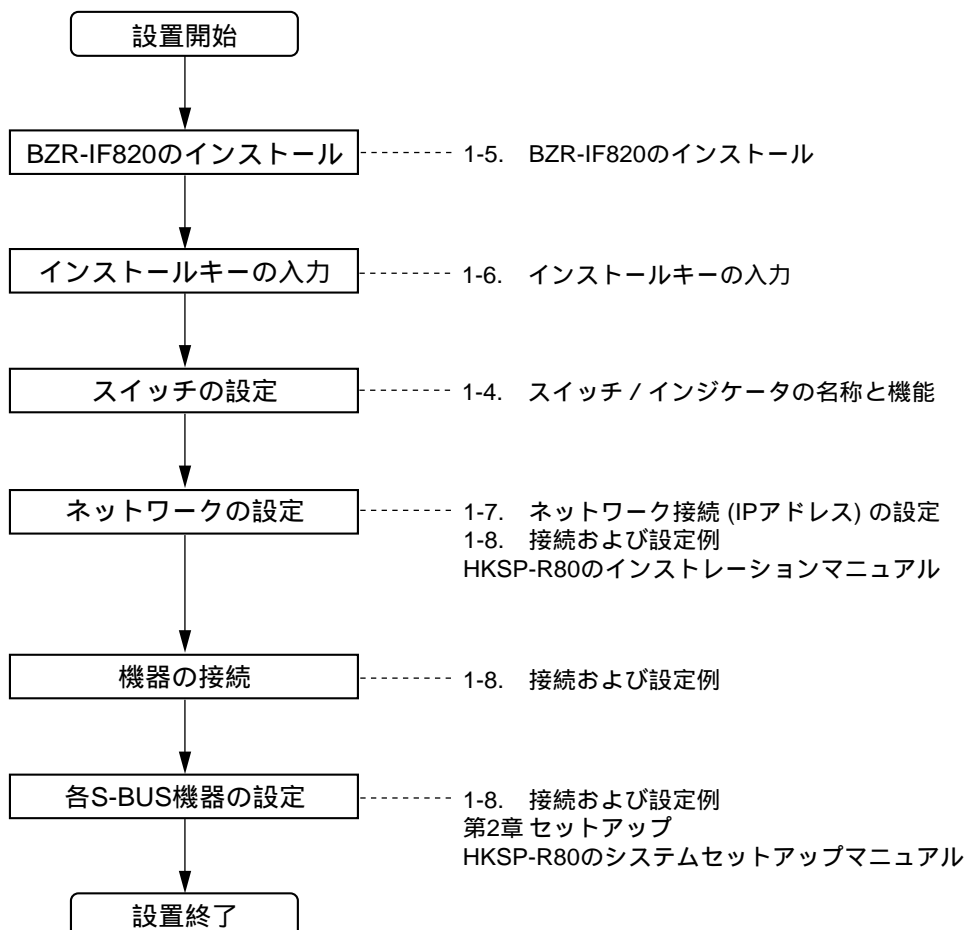
- BIT1-3: 未使用
- BIT5: 未使用
- BIT6: 未使用 (OFF 固定)
- BIT8: USER-DEF スイッチ

S803 (A-2)

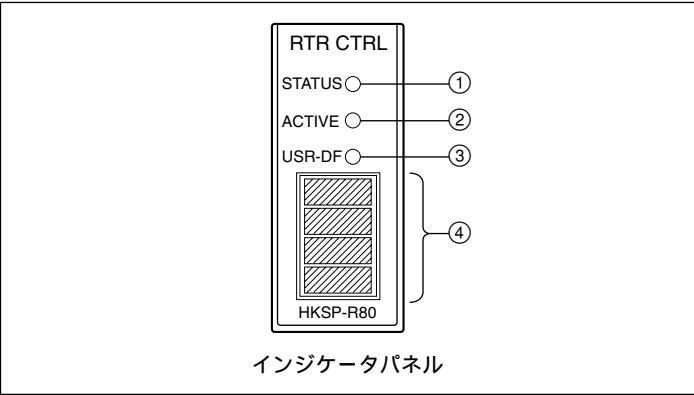
- BIT2: 未使用
- BIT3: S-BUS B P/S 選択スイッチ
- BIT7: ポーリング方式選択スイッチ

1-3. 設置作業手順

下記のフローチャートは、本機 (S-BUS / イーサネットコンバータ) の設置手順を示しています。各フローの詳細については、該当する項目および関連マニュアルをご覧ください。



1-4. スイッチ / インジケータの名称と機能



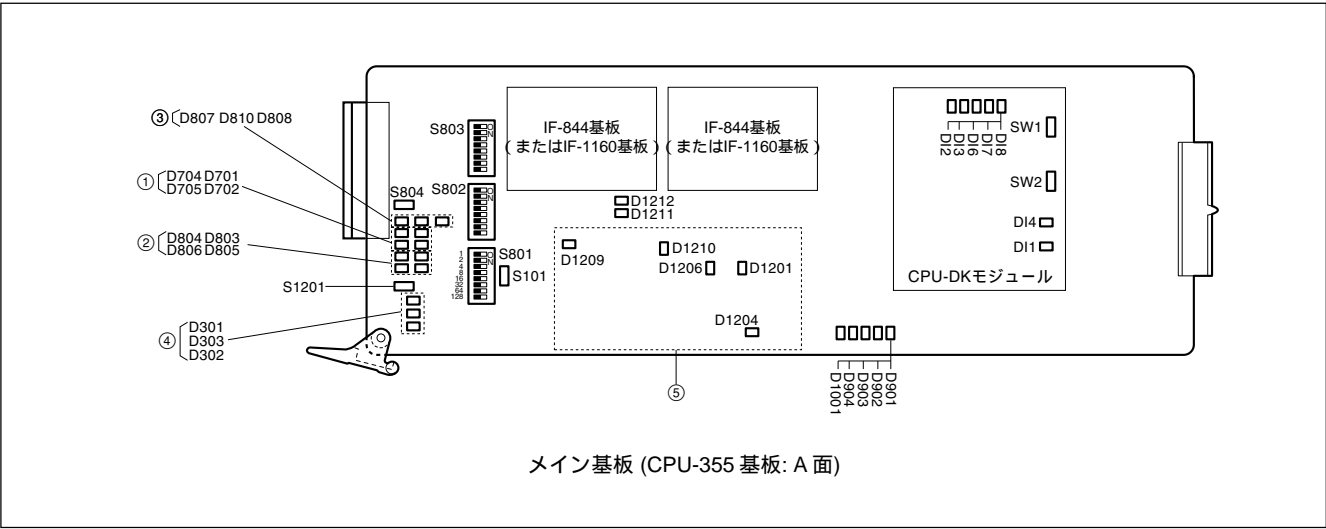
インジケータパネル

No.	名称	機能
①	STATUS	<p>緑点灯: 正常時</p> <p>緑点滅: ワーニング発生時</p> <p>赤点滅: エラー発生時</p> <p>参考</p> <p>エラーの詳細については HKSP-R80 のインストレーションマニュアルの 6 章を参照してください。</p>
②	ACTIVE	<p>緑点灯: CPU-355 基板がメイン機として動作している</p> <p>消灯: CPU-355 基板がバックアップ機として動作している (メイン機として動作していない)</p>
③	USR-DF	常に消灯

ディスプレイ

No.	名称	機能
④	ステータス表示器	<p>エラーや各種情報を表示する</p> <p>表示される情報は、ロータリスイッチ S804 の設定によって切り替えられる (S804 を参照)</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2 重化時にバックアップ機として動作している場合は、メイン機として動作しているときより暗めに表示されます。・ 通常動作中でエラーが無いときは、S803-3 が ON の場合「820P」、S803-3 が OFF の場合「820S」と表示されます。

メイン基板 (CPU-355 基板)



インジケータ

① REMOTE1 コネクタに関するステータス (S-BUS データリンクとのデータ送受信)

Ref.No (アドレス)	LED 名称	機能 (0.015 秒間点灯)
D701 (A-3)	REMOTE1 A RX	緑点灯: REMOTE1 A または A2 コネクタのデータリンクからデータを受信したとき
D704 (A-3)	REMOTE1 A TX	緑点灯: REMOTE1 A または A2 コネクタのデータリンクにデータを送信したとき
D702 (A-3)	REMOTE1 B RX	緑点灯: REMOTE1 B1 または B2 コネクタのデータリンクからデータを受信したとき
D705 (A-3)	REMOTE1 B TX	緑点灯: REMOTE1 B1 または B2 コネクタのデータリンクにデータを送信したとき

② REMOTE2 コネクタに関するステータス (RS-422A データラインとのデータ送受信)

Ref.No (アドレス)	LED 名称	機能 (0.015 秒間点灯)
D803 (A-3)	REMOTE2 A RX	緑点灯: REMOTE2 A コネクタのラインからデータを受信したとき
D804 (A-3)	REMOTE2 A TX	緑点灯: REMOTE2 A コネクタのラインにデータを送信したとき
D805 (A-3)	REMOTE2 B RX	緑点灯: REMOTE2 B コネクタのラインからデータを受信したとき
D806 (A-3)	REMOTE2 B TX	緑点灯: REMOTE2 B コネクタのラインにデータを送信したとき

③ 本機 (S-BUS / イーサネットコンバータ) に関するステータス

Ref.No. (アドレス)	LED 名称	機能
D807 (A-3)	PRIM-A	緑点灯: S-BUS A 系統が 1 次局に設定されているとき
D810 (A-3)	PRIM-B	緑点灯: S-BUS B 系統が 1 次局に設定されているとき
D808 (A-3)	REF-IN	緑点灯: S802-7 で選択されているリファレンスコネクタに有効な信号が入力されているとき

④ DATA LAN (DATA コネクタ) で接続されたデータリンクに関するステータス

Ref.No. (アドレス)	LED 名称	機能
D301 (A-3)	100/10	緑点灯: データリンク内の機器が 100BASE-TX で動作しているとき
D303 (A-3)	LINK	緑点灯: データリンク内で、機器間が正常につながって (リンクして) いるとき
D302 (A-3)	ACT	緑点灯: データリンク間でデータを送受信しているとき

⑤ 電源部に関するステータス

Ref.No. (アドレス)	LED 名称	機能
D1201 (D-3)	2.5 V	緑点灯: +2.5 V 電源正常
D1204 (D-3)	12 V	緑点灯: +12 V 電源正常
D1206 (C-3)	5 V-1	緑点灯: +3.3 V および +5 V 電源正常
D1209 (B-3)	3.3 V	緑点灯: +3.3 V 電源正常
D1210 (C-3)	5 V	緑点灯: +5 V 電源正常

その他

Ref.No. (アドレス)	LED 名称	機能
D901 (E-3)	—	製造調整用
D902 (E-3)	—	製造調整用
D903 (E-3)	—	製造調整用
D904 (E-3)	—	製造調整用
D1001 (E-3)	—	製造調整用
D1211 (B-2)	—	製造調整用
D1212 (B-2)	—	製造調整用

スイッチ

注意

2重化している場合、両方のCPU-355基板を同じ設定にしてください。

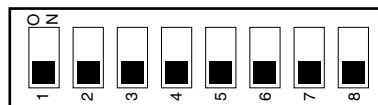
S101 (A-3): MON

テスト用スイッチです。(製造調整用)

S1201 (A-3): RESET

CPU-355 基板の動作をリセットします。

S801 (A-3): ステーション ID / ユニット ID 設定スイッチ 8 ピン DIP スイッチ



工場出荷時の設定 (■ はつまみの位置)

本機をS-BUSデータリンクに接続する場合、データリンク内における本機のステーション ID を設定します。

本機を3次局と接続する場合 (S803-3: ON), 本機は1次局として扱われるため、このスイッチの設定にかかわらず、ステーション ID は“1”が設定されます。

本機を1次局と接続する場合 (S803-3: OFF), 本機は2次局として扱われるため、ステーション ID を“0”, “1”, “255”以外に設定します。他の2次局の機器と同じアドレスにならないように設定してください。

本機をDATA LAN (イーサネット) に接続する場合、かつ、IP アドレスをDIPスイッチで設定する (S802-4がOFF) 場合、IP アドレスの4バイト目の値 (ユニット ID) を設定します。詳細については1-7 項を参照してください。

通電中に設定を変えてもステーション ID / ユニット ID は更新されません。

ステーション ID / ユニット ID を変更する場合は、設定を変更した後、電源をOFF/ON するかCPU-355 基板のリセットスイッチ (S1201) を押してください。

設定例

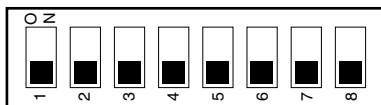


設定値が8の場合

< 設定値 >

8: 0 0 0 1 0 0 0 0 1; ON
 30: 0 1 1 1 1 0 0 0 0; OFF
 → (16 + 8 + 4 + 2)
 254: 0 1 1 1 1 1 1 1
 → (128 + 64 + 32 + 16 + 8 + 4 + 2)

S802 (A-2)
8 ピン DIP スイッチ



工場出荷時の設定 (■ はつまみの位置)

BIT1 ~ BIT3: 未使用

工場出荷時の設定 (OFF) のまま使用してください。

BIT4: ユニット ID/IP 設定方法選択スイッチ

DATA コネクタに接続された、データリンク内でのIPアドレスの設定方法を選択します。

通電中に設定を変えても動作モードは更新されません。動作モードを変更するには、設定を変更した後、電源をOFF/ONするかCPU-355基板のリセットスイッチ (S1201) を押してください。

ON 側: REMOTE3 に接続されたPCから設定した値が有効になる

OFF 側: IP アドレスは、10.129*1.6.[S801 の値]に設定される

※1: 129 ~ 191 の間で変更可能。詳細については1-7項を参照。

参考

IPアドレス設定の詳細については、1-7項を参照してください。

BIT5, BIT6: 未使用

工場出荷時の設定 (OFF) のまま使用してください。

BIT7: REF A/B スイッチ

リファレンス信号として、PFV-SPシリーズのREF IN A コネクタまたはREF IN B コネクタのどちらを使用するか選択します。

このスイッチの設定は、本機が通電中でも本機動作に反映されます。

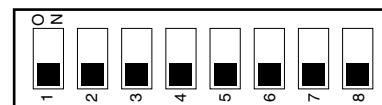
ON 側: REF IN B コネクタ

OFF 側: REF IN A コネクタ

BIT8: USER-DEF スイッチ

工場出荷時の設定 (OFF) のまま使用してください。

S803 (A-2)
8 ピン DIP スイッチ



工場出荷時の設定 (■ はつまみの位置)

BIT1: SYNC/ASYN 選択スイッチ

REMOTE1データリンクの通信を、S802-7で選択したREF IN AまたはREF IN B コネクタに入力するリファレンスビデオ信号に同期させて通信するか、または非同期で通信するかを選択します。また、このスイッチをSYNC側にしても、PFV-SPシリーズのコネクタ (REF IN AまたはREF IN B) にリファレンスビデオ信号が入力されていなければ、非同期で動作します。

このスイッチの設定は、本機が通電中でも本機動作に反映されます。

ON 側: ASYN (非同期モード)

OFF 側: SYNC (同期モード)

BIT2: 未使用

工場出荷時の設定 (OFF) のまま使用してください。

BIT3: SBUS B P/S 選択スイッチ

本機をS-BUSデータリンクに接続したとき、1次局に接続するか3次局に接続するかを選択します。

通電中に設定を変えても設定値は更新されません。新しい設定値に更新するには、設定を変更した後、電源をOFF/ONするかCPU-355基板のリセットスイッチ (S1201) を押してください。

ON 側: 3次局と接続 (S-BUSイーサネットコンバータ(P))

OFF 側: 1次局と接続 (S-BUSイーサネットコンバータ(S))

BIT4: テーブルデータサイズ選択スイッチ

REMOTE1のS-BUSデータリンク内で、本機が1次局のとき (S803-3: ON) 出力するS-BUSテーブルデータサイズを選択します。

ON 側: 32 バイト

OFF 側: 128 バイト

BIT5, BIT6: ポーレート選択スイッチ

・ BIT5: REMOTE1 A コネクタ

・ BIT6: REMOTE1 B コネクタ

本機を上記コネクタでS-BUSデータリンクに接続したときに使用するポーレートを設定します。

同じS-BUSデータリンクに接続した機器と同じ設定にしてください。

接続しているコネクタに応じてBIT5, BIT6を設定します。

このスイッチの設定は、本機が通電中でも本機動作に反映されます。

動作中に機器間のケーブルを外す可能性がある場合は、OFF側に設定してください。

ON 側: 1250 kbps

OFF 側: 312 kbps

BIT7: ポーリング方式選択スイッチ

S803-3 が ON に設定されているときのみ有効です。

ON 側: 1次局に影響なく3次局との通信を継続して実行する

OFF 側: 1次局との通信が途切れると3次局間通信を停止する

BIT8: A2 系統有効 / 無効スイッチ

PFV-SPシリーズのREMOTEコネクタによるS-BUS通信を有効にするか設定します。

このスイッチの設定は、本機が通電中でも本機動作に反映されません。

ON 側: 有効にする (本機はREMOTE1 A2 系統として認識される)

OFF 側: 無効にする

S804 (A-3): テストロータリスイッチ

通常は工場出荷時の設定 0 で使用してください。

注意

S804 を 8 または 9 に設定すると、基板内部に保存されている情報を破壊してしまう可能性がありますので注意してください。8 に設定した場合、本機で設定した情報がすべて失われ本機の動作に影響をおよぼす可能性があります。9 に設定した場合は、I²C EEPROM (CPU-355: IC807, CN-2334: IC102, CN-2335: IC102) の情報が失われます。



工場出荷時の設定

注意

- 通電中に設定を 1 ~ 5 に設定すると、本機動作に反映されません。通常動作に戻すには、スイッチを 0 に合わせます。
- 通電中に設定を A ~ F に変えても、動作モードは更新されません。A ~ F の動作モードに変更するには、設定を変更した後、CPU-355 基板を再起動 (電源を OFF/ON するか、CPU-355 基板のリセットスイッチ (S1201) を押す) してください。通常動作に戻すには、スイッチを 0 に合わせて CPU-355 基板を再起動します。

0: 通常動作

自己診断により検出された最初のエラーを、ステータス表示器にエラーコードで表示します。エラーコードは、CPU-355 基板を再起動または本スイッチを 5 に設定するまで最初に表示した番号が保持されます。

- 1: 本機のステーション ID を表示 (動作時有効)
ステータス表示器に本機のステーション ID を表示します。
- 2: エラーの総カウント数を表示 (動作時有効)
自己診断で検出されたエラーの総カウント数を、ステータス表示器に表示 (10 進法) します。CPU-355 基板のリセットスイッチ (S1201) を押すか、本スイッチを 5 に設定すると「0000」にリセットされます。
- 3: IP アドレスを表示 (動作時有効)
本機に設定されている IP アドレスをステータス表示器に表示します。
- 4: スwitchの設定状態を表示 (動作時有効)
CPU-355 基板上のスイッチ S802 および S803 の内容を 16 進数でステータス表示器に表示します。
- 5: ステータス表示器のエラー表示をリセット (動作時有効)
ロータリスイッチを 5 から 0 に戻すと、ステータス表示器に表示されているエラーコードをリセットし、S803-3 が ON の場合「820P」、S803-3 が OFF の場合「820S」と表示します。また、自己診断で検出されたエラーの総カウント数をリセットします。
- 6, 7: 未使用
- 8: Factory use only (起動時のみ有効)
工場出荷時の調整で使用します。
このモードを実行すると、設定したデータがすべて失われます。実行するときは、事前に HKSP-R80 に付属の BZR-20 により設定データのバックアップを行い、実行後、設定データを戻してください。
- 9: Factory use only
I²C EEPROM (シリアル ROM) データ編集モード (起動時のみ有効)
このモードを実行すると、基板内部に保存されているサービスにかかわる重要な情報を破壊してしまう可能性があります。このモードで起動させてしまった場合は、速やかに本スイッチを 0 にし、再起動してください。
- A, B: 未使用
- C: システムステータスログのクリア (起動時のみ有効)
システムステータスログをクリアします。
- D: 設定の初期化 (起動時のみ有効)
すべての設定を工場出荷状態にします。ただし、IP アドレスは初期化されません。
- E: ネットワーク設定モード (起動時のみ有効)
本機をネットワークに接続するための設定 (IP アドレスの設定など) に使用します。
詳しくは 1-7 項を参照してください。
- F: 強制プログラムダウンロードモード (起動時のみ有効)
サービスメンテナンス用です。

IF-844 基板

インジケータ

D1(B-1): SRX

S-BUS データリンクから自局あてのデータを受け取ったとき、約 0.015 秒間緑点灯します。

スイッチ

S1(B-3): RESET

IF-844 基板上の MPU のリセットスイッチです。

IF-1160 基板

インジケータ

D201 (B-3): STAT1

CPU ソフトウェアの初期化完了表示

起動時は消灯しています。

CPU のソフトウェアが初期化を完了したら点灯します。

D202 (B-3): STAT2

CPU の動作表示

CPU が正常に動作している場合は、約 1 秒おきに点滅します。

D203 (B-3): STAT3

IF-1160 基板のバージョンアップ中表示

バージョンアップ中に点灯し、終了後に消灯します。

D204 (B-3): STAT4

1 次局 / 2 次局動作表示

1 次局動作時に点灯します。

2 次局動作時に消灯します。

D205 (A-3): DONE

FPGA のコンフィギュレーションのステータス表示

FPGA のコンフィギュレーションが完了したら点灯します。

スイッチ

S201 (A-2): CONF

FPGA のリコンフィギュレーション実行スイッチ

FPGA のリコンフィギュレーションを実施し、ハードウェア、CPU ソフトウェア全ての再起動を行います。

S202 (A-2): RST

CPU ソフトウェアの再起動スイッチ

CPU ソフトウェアのみ再起動を行います。

FPGA のリコンフィギュレーションは実行しません。

CPU-DK モジュール

インジケータ

DI1 (緑): CD (Card Detect) ステータス LED

CPU-DK モジュールが正しく CPU-355 基板に装着されているときに点灯します。

DI4 (緑): +3.3 V

CPU-DK モジュールへ供給されている電源の状態を表示します。通電しているときに点灯します。

DI8 (緑): STATUS1 ステータスインジケータ

メンテナンス用です。通常状態では点灯しています。

DI7 (緑): STATUS2 ステータスインジケータ

メンテナンス用です。通常状態では消灯しています。

DI6 (緑): STATUS3 ステータスインジケータ

メンテナンス用です。通常状態では消灯しています。

DI3 (緑): STATUS4 ステータスインジケータ

メンテナンス用です。通常状態では消灯しています。

DI2 (緑): RUN ステータスインジケータ

CPU-DK モジュールが動作を開始すると点灯します。

スイッチ

SW1: RESET スイッチ

CPU-DK モジュールをリセットします。

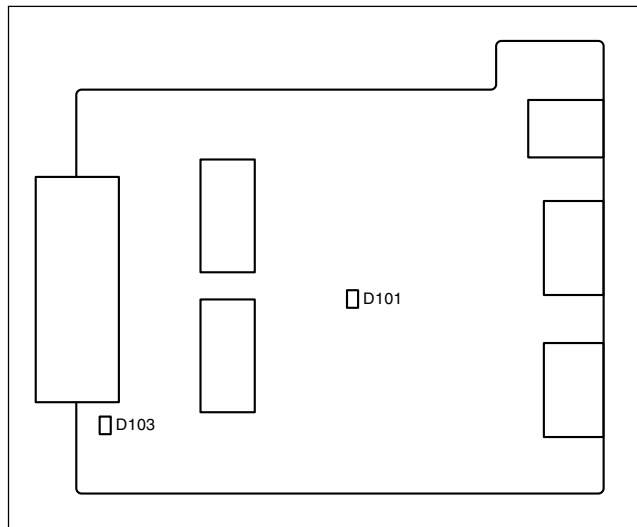
SW2 :MODE スイッチ

8 ピン DIP スイッチ

製造調整用スイッチです。設定を変更しないでください。

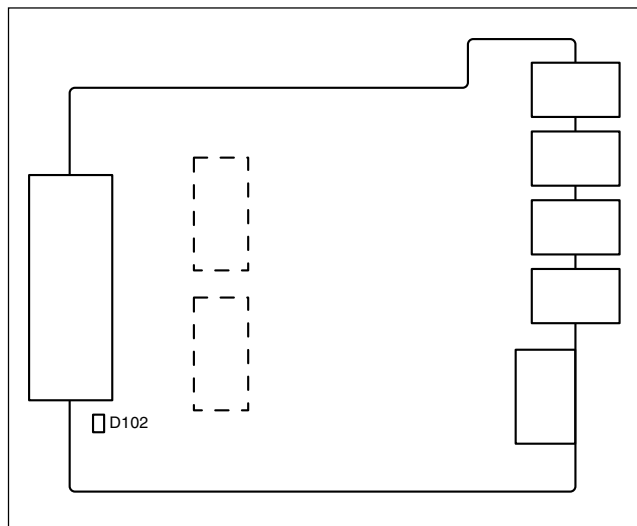
工場出荷時の設定はすべて OFF。

CN-2334 基板



Ref.No. (アドレス)	LED 名称	点灯時のステータス
D101 (B-3)	12 V	緑点灯 : +12 V 電源正常
D103 (A-1)	3.3 V	緑点灯 : +3.3 V 電源正常

CN-2335 基板



Ref.No. (アドレス)	LED 名称	点灯時のステータス
D102 (A-1)	5 V	緑点灯 : +5 V 電源正常

1-5. BZR-IF820 のインストール

注意

- ・ インストール/バージョンアップ作業を開始する前に、同じサイトにある Readme ファイルを必ず開き、内容を確認してください。
- ・ インストール作業は、メインスロットのみで行ってください。2重化で本機を使用している場合は、バックアップ機を取り外してください。

ソフトウェアインストール時間

接続方法	転送時間	フラッシュメモリ書き込み時	トータル時間
Ethernet (DATA コネクタ)	約 30 秒	約 80 秒	約 110 秒
RS-232C (REMOTE3 コネクタ)	約 2300 秒 (38 分)	約 80 秒	約 2380 秒

準備

ターミナルエミュレータについて

プログラムダウンロードおよびシステムセットアップを行うためには、ターミナルエミュレータが必要です。

ここで必要とされるターミナルは、通信により送られてくる文字コードを表示するための装置です。ターミナルエミュレータは、ターミナル装置と同じ動作を PC 上で擬似的に行うソフトウェアです。通信機能では RS-232C とイーサネット (TCP/IP) をカバーします。またエミュレート機能として VT100 以上が必要です。

ターミナルエミュレータプログラムは、オンラインによりネットワークからダウンロードして入手することができます。ターミナルエミュレータ起動後、ファンクションキーの割り当てが VT100 と異なることがあります。この状態ではシステムセットアップメニューに表示されるファンクションキーと機能が異なりますので、正しく合わせてください。キーアサイン方法に関しては、ダウンロードしたプログラムのマニュアルを参照してください。詳細については「2-2. 準備」を参照してください。

1. PFV-SPシリーズの電源を切り、他の機器へ接続されているケーブルをHKSP-R80のリアコネクタからすべて外す。
2. S803-3 を ON にする。

参考

S803-3 以外のスイッチは設定に反映されません。

3. 本機と PC を接続する。

イーサネットで接続する場合：

専用ケーブルを使い、LAN 用のハブと DATA コネクタを接続する。

RS-232C で接続する場合：

RS-232C ケーブルを使い、PC と REMOTE3 コネクタを接続する。

インストール

1. PC の電源を入れる。
2. すべてのプログラムデータを PC にコピーする。
3. 2重化で本機を使用している場合、バックアップ機を取り外す。
4. PFV-SP シリーズの電源を入れる。
5. PC のターミナルソフトを起動する。
6. PC の通信条件を設定する。

DATA コネクタで接続している場合：

本機に設定した IP アドレスと同じ IP アドレスをターミナルソフトの TCP/IP として設定し、ポート番号を 1001 に設定する。

注意

イーサネット接続で PC と HKSP-R80 を接続する場合は、PC の IP アドレスの 1 バイト目から 3 バイト目までを HKSP-R80 の IP アドレスと同じアドレスに設定してください。

REMOTE3 コネクタで接続している場合：

ボーレート	38400 bps
データビット	8 bit
パリティ	なし
ストップビット	1 bit
フロー制御	なし

7. ターミナルソフトから、プログラムデータを本機に送信する。

注意

データ送信中、CPU-355 基板のインジケータパネルのステータス表示器に 16 進数のコードが次々と表示されることを確認してください。

8. 送信終了後、データがフラッシュメモリに書き込まれ、CPU-355 基板は自動的にリセットされる。

注意

データがフラッシュメモリに書き込まれている最中に、ハードウェアリセットされる、あるいは電源が切れると、プログラムのダウンロードが正常に行われません。これにより CPU-355 基板が正常に起動しなくなった場合は、ソニーの営業窓口にお問い合わせください。

9. ターミナルソフトを終了させる。

10. DATA コネクタで接続している場合、PC のネットワークに関する情報を下記手順に従い初期化する。

注意

REMOTE3 コネクタで接続しているときは、初期化の必要はありません。

初期化手順

- (1) MS-DOS プロンプトまたはコマンドプロンプト画面を開く。
 - (2) コマンドラインから、以下のコマンドを入力する。
「arp -d XXX.XXX.X.XXX」
(XXX.XXX.X.XXX には、本機に設定した IP アドレスを入力します。はスペースを示します。)
 - (3) **Enter** を押す。
11. 手順 5 から 9 を繰り返し、すべてのプログラムデータを本機に送信する。
 12. インストールキーを入力する。(1-6 項 参照)

2重化で本機を使用している場合、手順 13 以降を行う。

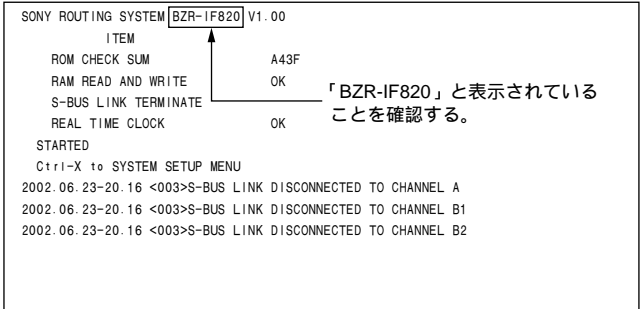
13. PFV-SP シリーズの電源を入れる。
14. メイン機を取り外し、バックアップ機をメインスロットに取り付ける。
15. PFV-SP シリーズの電源を入れる。
16. 手順 5 から 12 を繰り返し、バックアップ機に BZR-IF820 をインストールする。
17. PFV-SP シリーズの電源を切る。
18. バックアップ機をメインスロットから取り外し、バックアップスロットに取り付ける。
19. メイン機をメインスロットに取り付ける。

インストール後の確認

ここでは、RS-232C 接続した場合を前提にして説明していません。

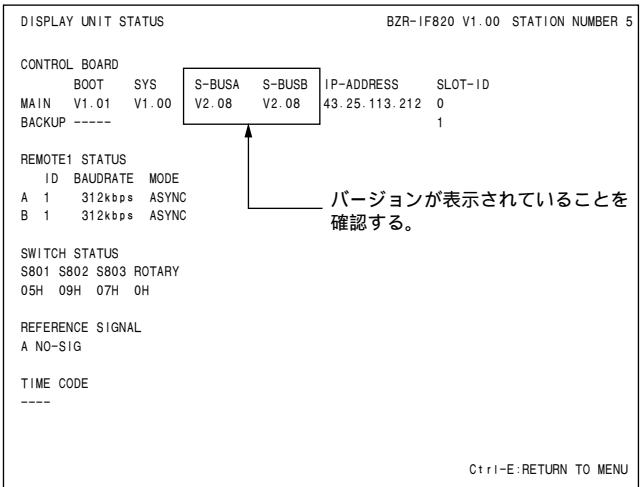
1. CPU-355 基板上の S803-3 を ON にする。
2. RS-232C ケーブルを使い、PC と REMOTE3 コネクタを接続する。
3. PC の通信条件を確認する。
38.4 kbps, 8 ビット, パリティなし, チェックなし

4. 電源をOFF/ONし、システムステータス画面が表示されることを確認する。
このとき、1行目の機種名が「BZR-IF820」となっていることを確認する。



システムステータス画面例

5. システムセットアップメニュー内のV:DISPLAY UNIT STATUSメニューで、以下の個所にバージョンが表示されていることを確認する。



メニュー画面例

- 注意**
「BZR-IF820」が表示されない、またはバージョンが表示されない場合、3章トラブルシューティングを参照し、対処してください。

1-6. インストールキーの入力

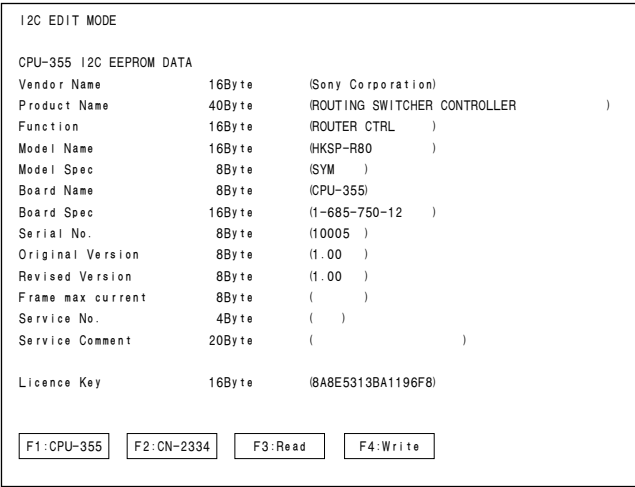
BZR-IF820 のソフトウェアは、インストールキーライセンスに対応しています。
インストールキーは、BZR-IF820 をダウンロードするための登録を行ったときに発行されたコードです。
プログラムをインストールした直後は正常に起動しません。
インストールキーが正しく入力されて、はじめて正常に起動します。

手順

注意

PCのターミナルエミュレータに、ファンクションキーF1～F5のコードが設定されていることを確認してください。設定されていない場合、「2-2. 準備」を参照してコードを設定してください。

1. RS-232Cケーブルを使い、PCとREMOTE3コネクタを接続する。
2. CPU-355 基板上のロータリスイッチS804を「9」に設定する。
3. PCの電源を入れる。
4. CPU-355 基板を再起動（リセットまたは電源をOFF/ON）する。
PCの画面に、次の画面が表示される。



画面例

5. カーソルを「Licence Key」の項目に移動する。

6. インストールキー (16 文字) を入力する。

注意

インストールキーは機種により異なります。また、大文字で表記された文字は大文字で入力してください。

7. **[F4]** を押す。データが保存される。

8. CPU-355 基板上のロータリスイッチ S804 を「0」に戻し、CPU-355 基板を再起動する。

注意

指定された項目以外は変更しないでください。間違っ
て他の項目を変更してしまった場合は、**[F4]** を押して
いない状態では、**[F3]** を押すと元の設定が再度読み出
されます。間違っ
た項目を変更したまま **[F4]** を押して保存してし
まった場合は、HKSP-R80 のメンテナンスマニュアル「1-
6-3. EEPROM」を参照して、項目を正しく入力し直して
ください。

1-7. ネットワーク接続 (IP アドレス) の設定

注意

メイン機でネットワークの設定を行うと、バックアップ機も同じ値が自動的に設定されます。

HKSP-R80 の IP アドレスには、次の 2 種類があります。

- ・ 任意の IP アドレス
- ・ 10. [グループ ID] .6. [ユニット ID] (1 バイト目と 3 バイト目が固定)
グループ ID は 129 ~ 191 の範囲内で設定可能

どちらの IP アドレスを使用するか、スイッチ S802-4 で選択できます。

S802-4	IP アドレス
ON	任意の IP アドレス
OFF	10. [グループ ID] .6. [ユニット ID] (工場出荷時の設定 :10.129.6.1) ・ 下記手順でグループ ID を設定する ・ S801 でユニット ID を設定する

グループ ID と任意の IP アドレスは、PC 上の同じ画面で設定できます。

設定手順

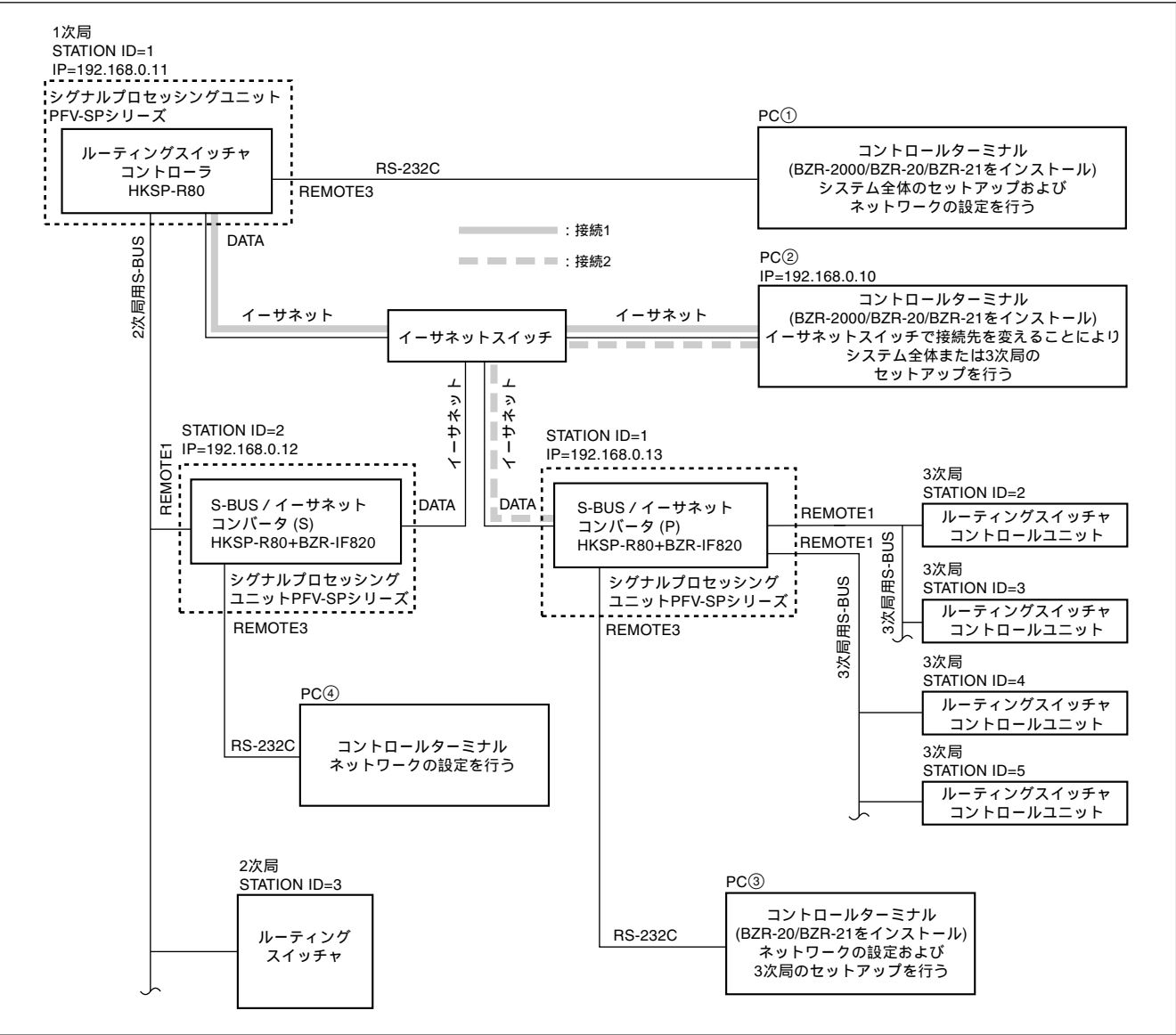
1. PFV-SP シリーズの電源を切る。
2. REMOTE3 コネクタに PC を接続する。
3. S804/CPU-355 基板を「E」に設定する。
4. PFV-SP シリーズの電源を入れる。
5. PC の画面に、次の画面が表示される。

IP ADDRESS = 192.168.0.135	—— S802-4がONのときに有効になるIPアドレス
GROUP ID = 129	—— S802-4がOFFのときに有効になるグループID
TERM PORT = 1001	—— ターミナルのポート番号
LOG PORT = 8001	—— ログのポート番号
DEF GWAY =	—— デフォルトゲートウェイ値
SNET MASK =	—— サブネットマスク値
OPT IP =	—— イーサネットで接続する相手側のBZR-IF820のIPアドレス
OPT1 PORT = 0	—— イーサネットで接続する相手側のBZR-IF820のTCP/IPポート
OPT2 PORT = 0	—— 使用しない
TERM T OUT = 10	—— ターミナルをイーサネットで接続した場合の、タイムアウト時間 0~999 (単位: 分)。0を入力するとタイムアウトしない
SNMP TRAP1 = 192.168. 0. 1	} 変更しないこと
SNMP TRAP2 = 192.168. 0. 2	
GMT (+) = 09	
Contact =	
Name =	
Location =	

6. 設定する項目にカーソルを移動し、**[Enter]** を押す。
入力モードになる。
7. 必要な項目を入力する。
8. **[Enter]** を押し、設定を終了させる。
9. PFV-SP シリーズの電源を OFF/ON する。
10. PC のモニタに、設定した IP アドレスおよびグループ ID が表示されていることを確認する。
11. S804/CPU-355 基板を「0」に設定し、電源 OFF/ON または CPU-355 基板のリセットスイッチ (S1201) を押し、通常動作モードに戻る。
12. バックアップ機が立ち上がったことを確認し、約5秒間待ってから再度電源を OFF/ON または CPU-355 基板のリセットスイッチ (S1201) を押し、再起動させる。

1-8. 接続および設定例

ここでは , 以下のような機器の構成を例にして , といった順序で , 主に何を設定すればよいか , 説明します。



Index

1. BZR-IF820 のインストール
2. インストールキーの入力
3. スイッチの設定
5. ネットワークの設定
6. 機器の接続
7. 機器の電源を入れる
8. 各 S-BUS 機器の設定

BZR-IF820 のインストール

1. 「1-5. BZR-IF820 のインストール」を参照して、すべてのプログラムデータをインストールする。

インストールキーの入力

1. 「1-6. インストールキーの入力」を参照して、インストールキーを入力する。

スイッチの設定

1. 1 次局のルーティングスイッチャコントローラ (HKSP-R80) の S802, S803 を以下のように設定する。
S802-4 : ON
S803-2 : ON
S803-3 : ON
その他のスイッチは、状況に応じて HKSP-R80 のインストールマニュアル「3. スイッチ/インジケータの名称と機能」を参照して設定してください。
2. S-BUS / イーサネットコンバータ (S) の S801, S802, S803 を以下のように設定する。
S801-1, 3 ~ 8 : OFF
S801-2 : ON
S802-4 : ON
S803-3 : OFF
その他のスイッチは、状況に応じて「1-2-3. 基板上のスイッチの機能」および「1-4. スイッチ/インジケータの名称と機能」を参照して設定してください。
3. S-BUS / イーサネットコンバータ (P) の S802, S803 を以下のように設定する。
S802-4 : ON
S803-3 : ON
その他のスイッチは、状況に応じて「1-2-3. 基板上のスイッチの機能」および「1-4. スイッチ/インジケータの名称と機能」を参照して設定してください。

ネットワークの設定

注意

イーサネットは、以下の場合であることを想定して説明しています。

- ・サブネットが「192.168.0.X」である
- ・LANは、図に示した機器以外接続されていない、専用LANとする

1. PC② を以下のように設定する。
IP アドレス : 「192.168.0.10」
サブネットマスク : 「255.255.255.0」
これらの設定方法は、PC またはネットワークカードに付属のマニュアルを参照してください。
2. PC① を使用して、ルーティングスイッチャコントローラ (HKSP-R80) を以下のように設定する。
設定方法の詳細については、HKSP-R80 のインストールマニュアル「4. IP アドレスの設定」を参照してください。
IP ADDRESS の項目 : 192.168.0.11
TERM PORT の項目 : 1001
LOG PORT の項目 : 8001
SNET MASK の項目 : 255.255.255.0
TERM T OUT の項目 : 10
3. PC④ を使用して、S-BUS / イーサネットコンバータ (S) を以下のように設定する。
設定方法の詳細については、「1-7. ネットワーク接続 (IP アドレス) の設定」を参照してください。
IP ADDRESS の項目 : 192.168.0.12
TERM PORT の項目 : 1001
LOG PORT の項目 : 8001
SNET MASK の項目 : 255.255.255.0
OPT IP の項目 : 192.168.0.13
OPT 1 PORT の項目 : 8201
TERM T OUT の項目 : 10
4. PC③ を使用して、S-BUS / イーサネットコンバータ (P) を以下のように設定する。
設定方法の詳細については、「1-7. ネットワーク接続 (IP アドレス) の設定」を参照してください。
IP ADDRESS の項目 : 192.168.0.13
TERM PORT の項目 : 1001
LOG PORT の項目 : 8001
SNET MASK の項目 : 255.255.255.0
OPT IP の項目 : 192.168.0.12
OPT 1 PORT の項目 : 8201
TERM T OUT の項目 : 10

機器の接続

注意

接続の際は、各機器の電源を切ってください。

1. ルーティングスイッチャコントローラ (HKSP-R80) , S-BUS / イーサネットコンバータ (S) , S-BUS / イーサネットコンバータ (P) の各DATAコネクタとイーサネットスイッチを、イーサネットケーブル (ストレート) で接続する。
2. PC② のネットワークコネクタとイーサネットスイッチを、イーサネットケーブル (ストレート) で接続する。
3. S-BUS 機器を同軸ケーブルで接続する。
詳細については、HKSP-R80 のインストールシマンニユアル「5. システム接続」を参照してください。

機器の電源を入れる

1. 各機器の電源を入れる。
S-BUS / イーサネットコンバータ (S) と、S-BUS / イーサネットコンバータ (P) との間で通信が始まり、3 次局のリモートコントロールパネルから2次局のルーティングスイッチャの制御が可能となります。

各 S-BUS 機器の設定

<PC②とルーティングスイッチャコントローラHKSP-R80のイーサネット接続 (接続 1)>

1. PC② でターミナルエミュレータを起動する。
2. 接続方法として、ネットワーク接続 (イーサネットLAN) を選択する。
3. 接続先IPアドレス (または、ターゲットIPアドレス、ホストIPアドレス) および接続用ポート (TCP/IP Port) を以下のように設定し、接続を開始する。
IP アドレス: 「192.168.0.11」
接続用ポート: 「1001」
ルーティングスイッチャコントローラHKSP-R80と接続され、ターミナル初期画面が表示される。
4. HKSP-R80のシステムセットアップマニュアルを参照して、各項目を設定する。

<PC②とS-BUS / イーサネットコンバータ (P) のイーサネット接続 (接続 2)>

1. PC② でターミナルエミュレータを起動する。
2. 接続方法として、ネットワーク接続 (イーサネットLAN) を選択する。
3. 接続先IPアドレス (または、ターゲットIPアドレス、ホストIPアドレス) および接続用ポート (TCP/IP Port) を以下のように設定し、接続を開始する。
IP アドレス: 「192.168.0.13」
接続用ポート: 「1001」
S-BUS / イーサネットコンバータ (P) と接続され、ターミナル初期画面が表示される。
4. 「第2章 セットアップ」を参照して、各項目を設定する。

第2章 セットアップ

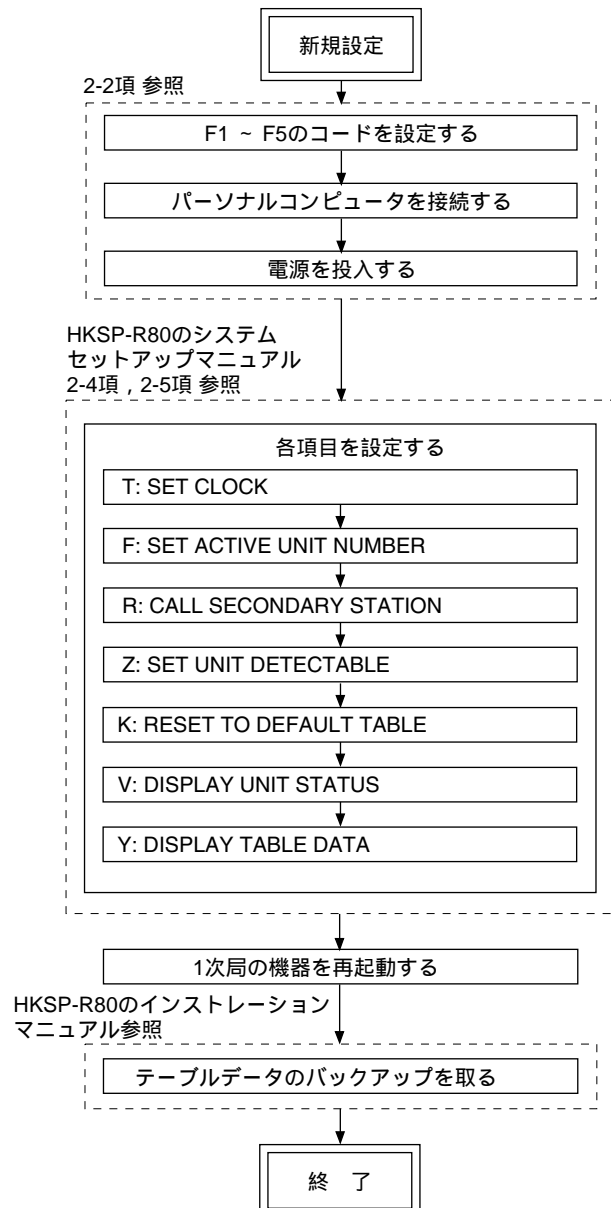
2-1. 概要

S-BUS / イーサネットコンバータ (P) から ,S-BUS サブネット (3 次局) のセットアップを行います。

本項は ,HKSP-R80 のシステムセットアップマニュアルとの相違点のみ記載しています。HKSP-R80 のシステムセットアップマニュアルと併せてご覧ください。

2-1-1. 設定手順のフロー

設定手順のフロー図を以下に示します。



2-1-2. マニュアル中の表記について

このマニュアルでは ,コントローラターミナルのキー操作について ,次のように記載します。

- ・ 枠囲いはキーを示します。(Ctrl, Enter など)
- ・ 文中の「数字キー」は, 0 ~ 9 の総称です。
- ・ 文中の「アルファベットキー」は A ~ Z の総称です。
- ・ 文中の「カーソルキー」は, ↑, ↓, ←, → の総称です。
- ・ 2つのキーを同時に押す動作は, 2つのキーを「-」でつないで表します。(Ctrl - X など)

2-2. 準備

- 2 次局を設定する。
ステーションID (2 ~ 254) を設定する。(2次局機器のマニュアルを参照)
- HKSP-R80 と 2 次局の機器を接続する。(1-1-3 項 参照)
- PC を設定する。(F1 ~ F5 コードの設定)
ターミナルエミュレータプログラムのマニュアルを参照し、あらかじめ下表に従って F1 ~ F5 のコードを設定する。

	Key Name	Command
F1	F1	^ [[17
F2	F2	^ [[18
F3	F3	^ [[19
F4	F4	^ [[20
F5	F5	^ [[21

- PC と HKSP-R80 を接続する。
RS-232C の場合：RS-232C ケーブルを使い、REMOTE3 コネクタに PC を接続する。
イーサネットの場合：専用ケーブルを使い、LAN 用のハブと DATA コネクタを接続する。
- PC の通信条件を設定する。
RS-232C の場合：38.4 kbps、8 ビット、パリティなし、チェックなし
イーサネットの場合：ターミナルエミュレータプログラムの IP アドレスを HKSP-R80 のアドレスと同じ IP 番号に設定する。
ポート番号を 1001 に設定する。

参考

このポート番号は、「1-7. ネットワーク接続 (IP アドレス) の設定」の設定手順内の、項目「TERM PORT」に設定されている値です。
- 電源を入れる。
S-BUS データリンク上のすべての機器の電源を入れる。
PC のモニタ上にシステムステータス画面が表示される。(2-3 項 参照)

注意

システムの電源を入れた後、約 1 分間経過してから設定を開始してください。
電源を入れた直後は、各機器の動作が安定しない場合があります。

- 1 次局のメニュー画面を表示させる。(2-3 項 参照)
システムステータス画面から **Ctrl** - **X** を押すと、1 次局のメニュー画面に入る。
1 次局のメニュー画面から HKSP-R80 のシステムセットアップマニュアル 2-4 項の各設定を行う。

イーサネット接続時は、16 人までが同時に設定等の作業をすることができます。ただし、同じ項目は同時に設定できません。

イーサネットの LAN ケーブルの接続を外すときは、起動させているすべてのターミナルソフトウェアおよび BZR-2000 を終了させてください。その後、ケーブルをコネクタから外してください。

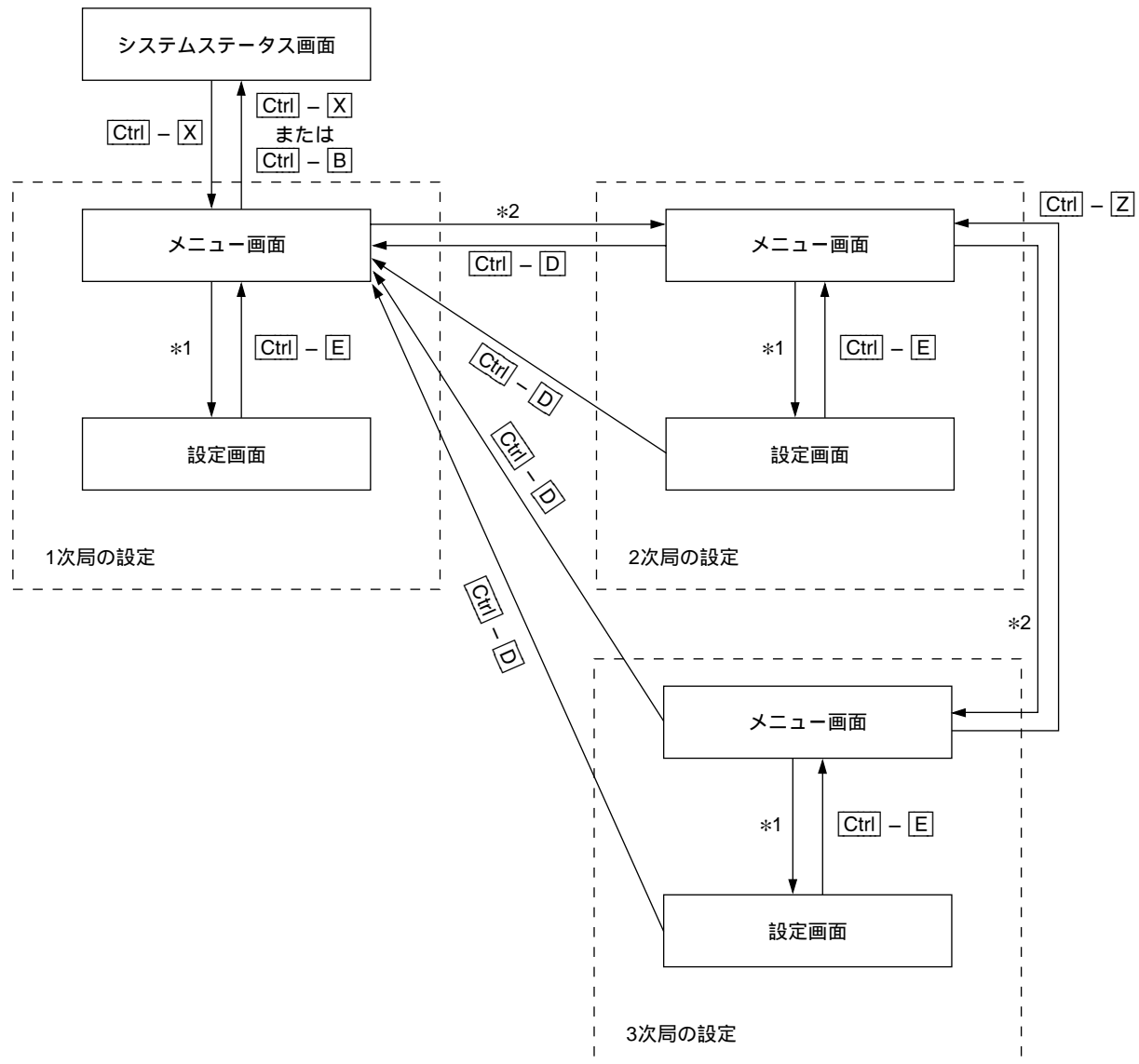
注意

すべての設定が終了したら、システムステータス画面に戻し、1 次局の機器の電源を OFF/ON してください。

2-3. 表示画面と画面間の移動について

セットアップメニューの表示画面には、下記の3種類があります。

- ・ システムステータス画面： ルーティングシステム運用中の状態を表示
- ・ メニュー画面： 設定するためのメニュー項目を表示
- ・ 設定画面： 各メニュー項目の設定内容を表示



*1: 選択方法が2種類あります。次ページの“メニュー画面”を参照してください。

*2: 2-5 ページの“メニュー画面 / 2次局”を参照してください。

システムステータス画面

1次局 (S-BUS / イーサネットコンバータ (P)) の電源を入れると表示される画面です。

Ctrl - **X** を押すと、メニュー画面に変わります。

メニュー画面から **Ctrl** - **X** または **Ctrl** - **B** を押すと、システムステータス画面に戻ります。

注意

パスワードが設定されている場合は、**Ctrl** - **X** を押してメニュー画面に入るときに、パスワードを聞いてきます。正しいパスワードを入力してください。

システムステータス画面では、電源投入時に行われた自己診断の結果を表示します。また、システム運用中にステータスメッセージなどを表示します。詳細は、HKSP-R80 のシステムセットアップマニュアル「3-2. 動作確認」を参照してください。

メニュー画面

システムステータス画面から **Ctrl** - **X** を押すと表示される画面です。(1次局のメニュー画面)

1次局のメニュー画面には、システム設定のためのメニュー項目がすべて表示されます。

次のいずれかの方法でメニュー項目を選択すると、設定画面に変わります。

- カーソルキーで希望のメニュー項目を選択し、**Enter** を押します。(この方法が実行できないターミナルエミュレータプログラムでは、設定できません。)
- 各メニュー項目に割り当てられているアルファベットキーを押します。

1次局のメニュー画面から各設定を行います。

(HKSP-R80 のシステムセットアップマニュアル 2-4 項 参照)

1次局のメニュー画面から **Ctrl** - **X** または **Ctrl** - **B** を押すと、システムステータスに戻ります。

```
SONY ROUTING SYSTEM BZR-IF820 V1.00
ITEM
ROM CHECK SUM           A43F
RAM READ AND WRITE      OK
S-BUS LINK TERMINATE
REAL TIME CLOCK         OK
STARTED
Ctrl-X to SYSTEM SETUP MENU
2002.06.23-20.16 <003>S-BUS LINK DISCONNECTED TO CHANNEL A
2002.06.23-20.16 <003>S-BUS LINK DISCONNECTED TO CHANNEL B1
2002.06.23-20.16 <003>S-BUS LINK DISCONNECTED TO CHANNEL B2
```

電源投入時のシステムステータス画面例

```
SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU      BZR-IF820 V1.00      STATION NUMBER 3

MODIFICATION COMMAND

F: SET ACTIVE UNIT NUMBER           Q: CHANGE CROSSPOINT
R: CALL SECONDARY STATION           Z: SET UNIT DETECTABLE

MAINTENANCE COMMAND

K: RESET TO DEFAULT TABLE          T: SET CLOCK
V: DISPLAY UNIT STATUS              W: SYSTEM STATUS LOG
X: DISPLAY S-BUS COMMUNICATION      Y: DISPLAY TABLE DATA

Ctrl-X/B: QUIT SETUP MENU
```

1次局のメニュー画面例

メニュー画面 / 2次局

2次局のメニュー画面を呼び出すには、1次局のメニュー項目「R: CALL SECONDARY STATION」を選択し、続いて設定したい2次局機器のステーションIDを入力します。

1次局のルーティングスイッチャに2次局機能を設定する場合は、2次局のステーションIDとして1を入力します。

2次局のメニュー画面から各設定を行います。

(HKSP-R80のシステムセットアップマニュアル2-5項参照)

2次局のメニュー画面から **Ctrl** - **D** を押すと、1次局のメニュー画面に戻ります。

注意

メニュー画面と設定画面の表示中は、ルーティングシステムの応答がシステムステータス画面に比べて遅くなります。そのため、設定が終了したらシステムステータス画面に戻してください。

設定画面

1次局および2次局のメニュー画面から各設定項目を選択すると表示される画面です。

この画面から実際の設定を行います。

表示される画面は設定項目によって異なるため、各設定項目 (HKSP-R80のシステムセットアップマニュアル2-4項および2-5項) の中で画面例が記載されています。

2次局の設定画面から、**Ctrl** - **E** を押すと2次局のメニュー画面に戻り、**Ctrl** - **D** を押すと、1次局のメニュー画面に戻ります。

1次局の設定画面から **Ctrl** - **E** を押すと、1次局のメニュー画面に戻ります。

注意

メニュー画面と設定画面の表示中は、ルーティングシステムの応答がシステムステータス画面に比べて遅くなります。そのため、設定が終了したらシステムステータス画面に戻してください。

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU		BZR-IF820 V1.00	STATION NUMBER 3
MODIFICATION COMMAND			
F: SET ACTIVE UNIT NUMBER		Q: CHANGE CROSSPOINT	
R: CALL SECONDARY STATION		Z: SET UNIT DETECTABLE	
MAINTENANCE COMMAND			
K: RESET TO DEFAULT TABLE		T: SET CLOCK	
V: DISPLAY UNIT STATUS		W: SYSTEM STATUS LOG	
X: DISPLAY S-BUS COMMUNICATION		Y: DISPLAY TABLE DATA	
Ctrl-X/B: QUIT SETUP MENU			

2次局のメニュー画面例

第3章

トラブルシューティング

プログラムデータのダウンロードに失敗した

状態：フラッシュROMへの書き込み中にハードウェアリセットされた（リセットボタンが押された）、あるいは電源が切れてしまった。

- 対策：
- ・ S-BUS ドライバソフトのダウンロードに失敗した場合
IF-844 基板または IF-1160 基板のモジュールを交換する必要があります。ソニーの営業窓口にお問い合わせください。
 - ・ アプリケーションプログラムのダウンロードに失敗した場合
CPU-355 基板の S804 を「F」に設定し、リセットスイッチ S1201 を押してください。再度イーサネットからファイルのダウンロードを行ってください。

イーサネット接続でターミナルセットアップ中に突然接続が切れた

理由：キー入力がない状態が一定時間（初期値は10分）続くと、BZR-IF820 側でタイムアウトを検知して自動的に切断します。

対策：「1-7. ネットワーク接続（IP アドレス）の設定」を参照し、タイムアウト時間を設定してください。

注意

設定を0分にするとタイムアウトが無制限になります。タイムアウトを無制限にした場合、PCとBZR-IF820間をイーサネット接続した後切断しないで終了すると該当ポートがオープンになったままとなり、ハードリセットする以外にポートを閉じることができなくなります。

バックアップ CPU 基板が起動したが、イーサネット経由で PC と接続できなくなった

理由：CPU-355 基板のメイン / バックアップが切り換わったとき、バックアップ基板と PC のネットワーク情報に不整合がおきたためです。

対策：以下の手順で PC のネットワークに関する情報を初期化してください。

初期化手順

- (1) MS-DOS プロンプトまたはコマンドプロンプト画面を開く。
- (2) コマンドラインから、以下のコマンドを入力する。
「arp -d 〱XXX.XXX.X.XXX」
(XXX.XXX.X.XXX には、本機に設定した IP アドレスを入力します。〱 はスペースを示します。)
- (3) **Enter** を押す。

プログラムを正常にインストールしたにもかかわらず BZR-IF820 が起動しない

状態：ステータス表示器に「CODE ****」がスクロールして表示されます。（*：数字）

理由：インストールキーが正しく入力されていません。

対策：1-6 項を参照してもう一度インストールキーを正しく入力してください。

電源投入時のシステムステータス画面が表示されない

対策：・ 本機と PC がケーブルで正しく接続されているか確認してください。

- ・ CPU-355 基板上の S803-3 が ON になっているか確認してください。（1-2-3 項 参照）
- ・ 2-2 項を参照して通信条件の設定を確認してください。
- ・ 1-5 項を参照してもう一度プログラムデータを正しくインストールしてください。

V：DISPLAY UNIT STATUS メニューで、ソフトウェアのバージョンが正しく表示されない、または「FAIL」と表示される

対策：1-5 項を参照し、プログラムデータが正しくインストールされているか確認してください。
プログラムデータが正しくインストールされているにもかかわらず、ソフトウェアのバージョンが正しく表示されない場合は部品の交換が必要です。ソニーの営業窓口にお問い合わせください。

このマニュアルに記載されている事柄の著作権は当社にあります。

従って、当社の許可なしに無断で複写したり、説明内容（操作、保守等）と異なる目的で本マニュアルを使用することを禁止します。

The material contained in this manual consists of information that is the property of Sony Corporation. Sony Corporation expressly prohibits the duplication of any portion of this manual or the use thereof for any purpose other than the operation or maintenance of the equipment described in this manual without the express written permission of Sony Corporation.

Le matériel contenu dans ce manuel consiste en informations qui sont la propriété de Sony Corporation. Sony Corporation interdit formellement la copie de quelque partie que ce soit de ce manuel ou son emploi pour tout autre but que des opérations ou entretiens de l'équipement à moins d'une permission écrite de Sony Corporation.

Das in dieser Anleitung enthaltene Material besteht aus Informationen, die Eigentum der Sony Corporation sind. Die Sony Corporation untersagt ausdrücklich die Vervielfältigung jeglicher Teile dieser Anleitung oder den Gebrauch derselben für irgendeinen anderen Zweck als die Bedienung oder Wartung der in dieser Anleitung beschriebenen Ausrüstung ohne ausdrückliche schriftliche Erlaubnis der Sony Corporation.

